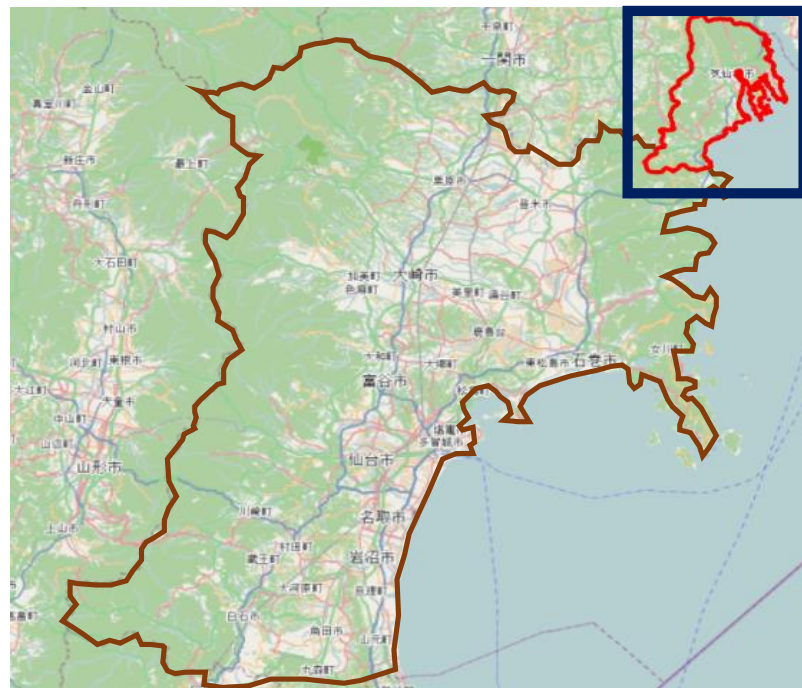
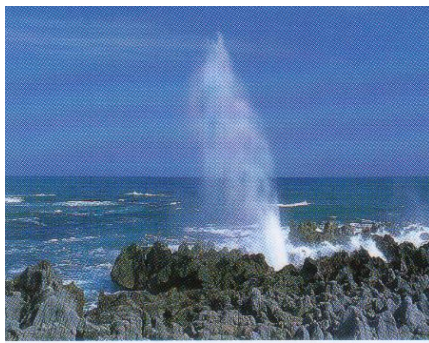


～ 気仙沼市の防災情報発信について ～

位置図（宮城県の北東端）



震災前の気仙沼市



東日本大震災時の気仙沼市の被災状況



人的被害 **1,355人** (住民登録ベース)

令和4年3月31日現在

(内訳：直接死1,033人、関連死110人、行方不明者212人)

市内の事業所数： 4,102事業所

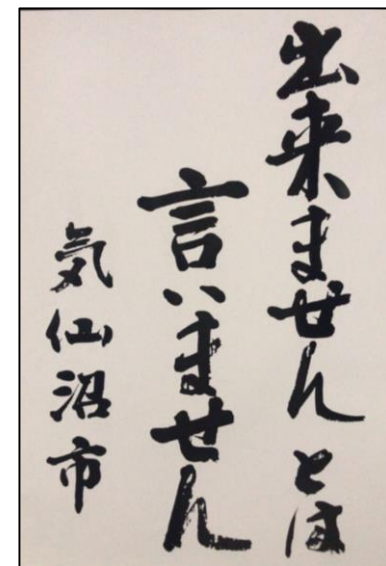
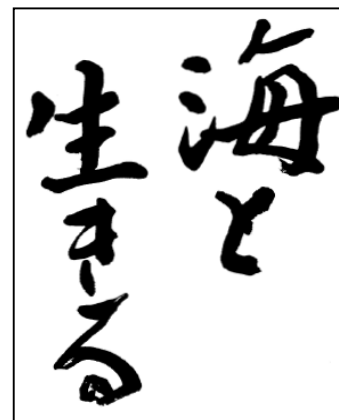
うち被災事業所数 (概数) 3,314事業所 **80.7%**

従業者数： 30,232人

うち被災従業員数 (概数) 25,236人 **83.5%**

■復興の目標

- ・ 津波死ゼロのまちづくり
- ・ 早期の産業復活と雇用の確保
- ・ 職住復活と生活復興
- ・ 持続発展可能な産業の再構築
- ・ スローでスマートなまちと暮らし
- ・ 地域に笑顔溢れるまちづくり



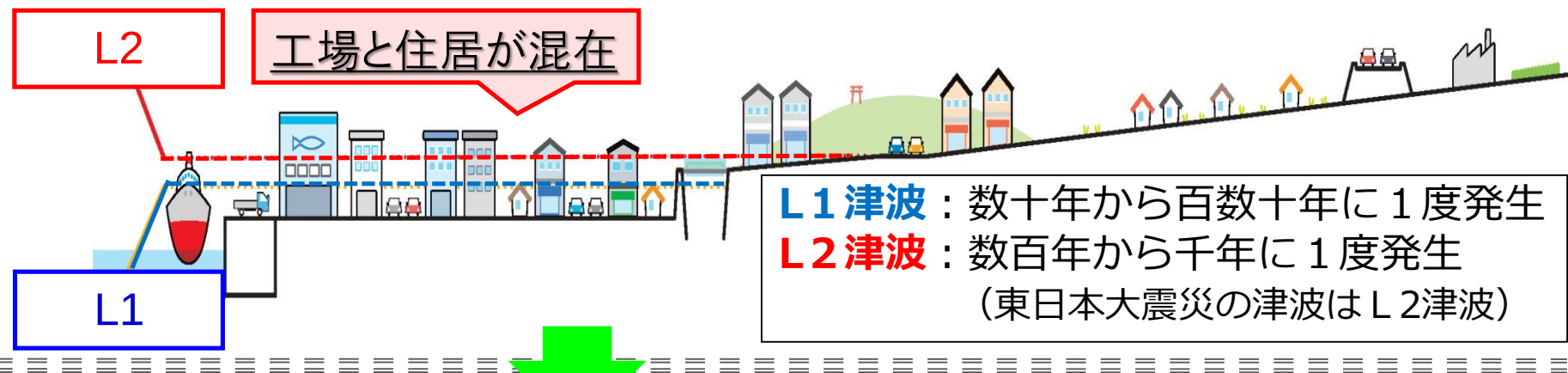
地域と学校協働の防災訓練



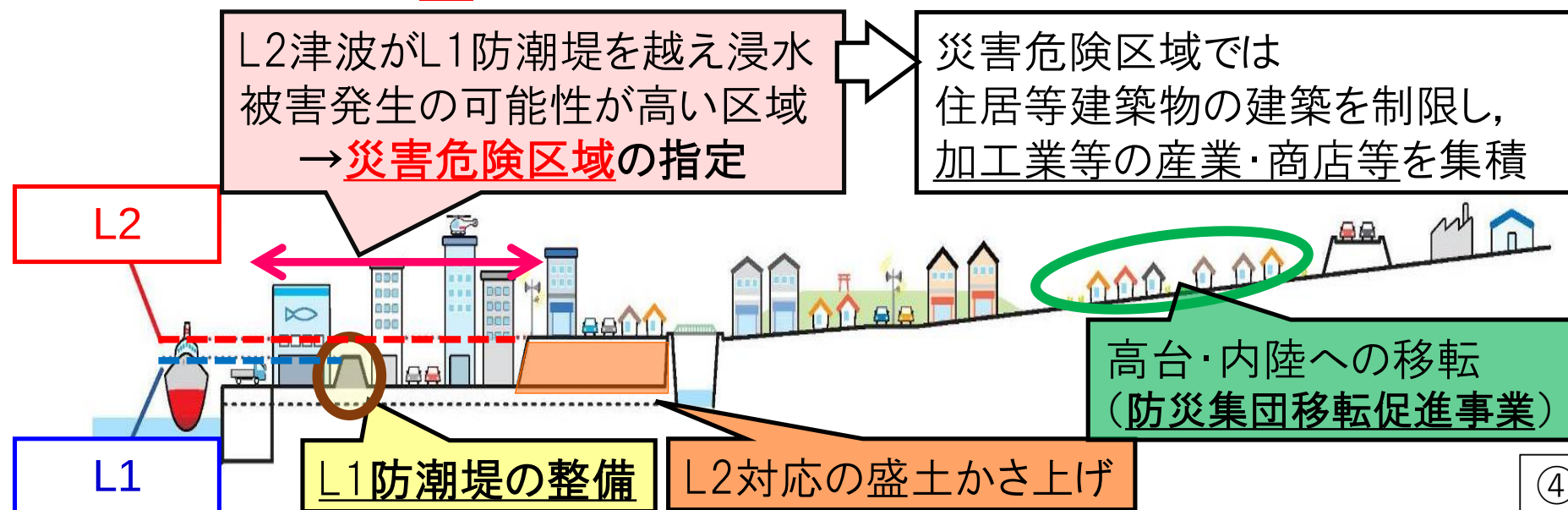
津波避難訓練（地域、幼・小・中）



・市街地部（震災前）

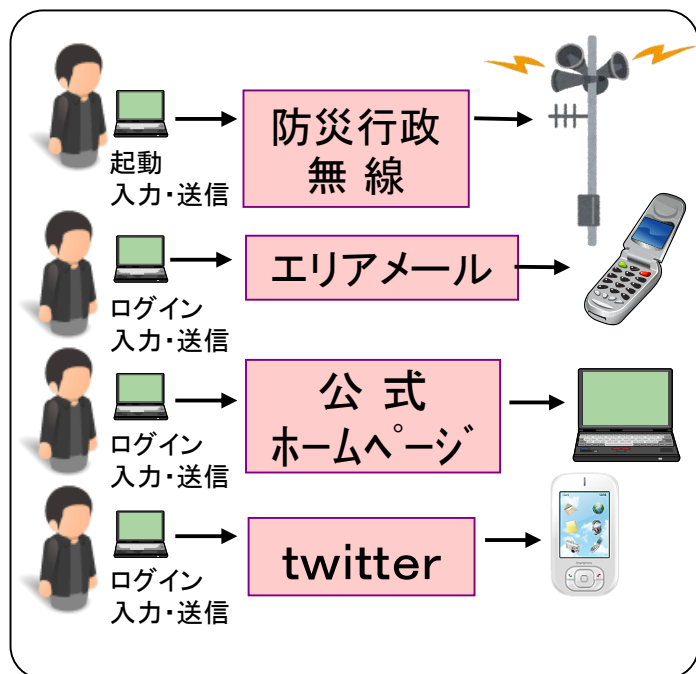


・市街地部（震災後）

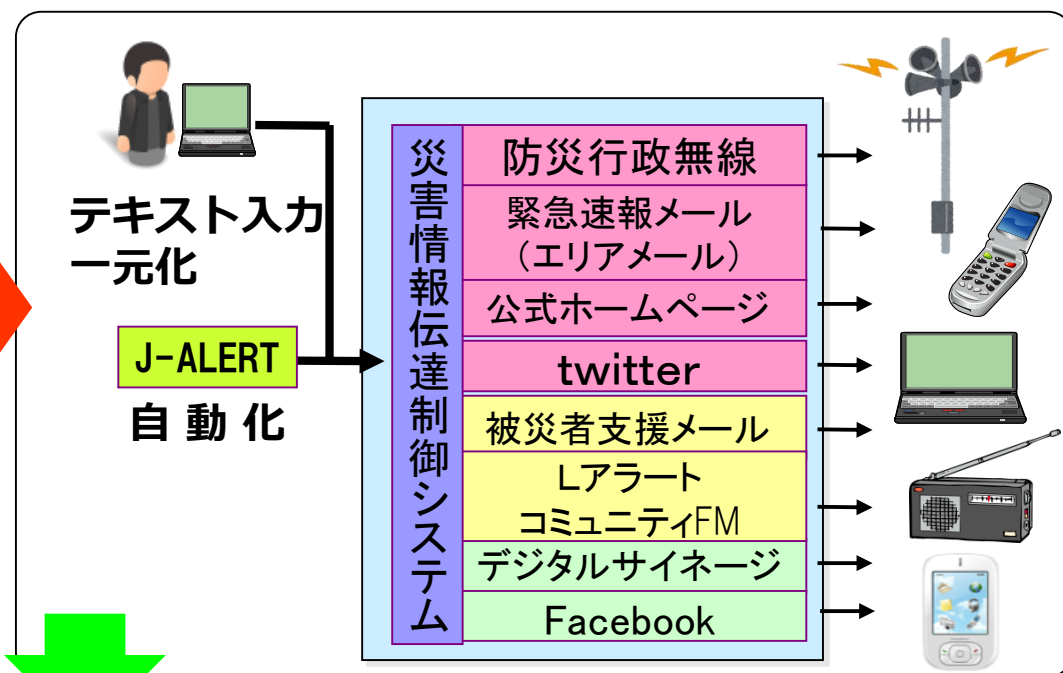


防災情報の発信体制

震災当時（媒体ごとに入力・発信）



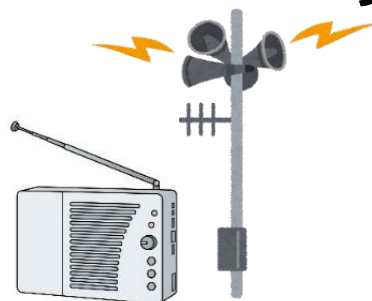
震災後（J-Alertは自動で各媒体発信。テキストは一元化）



ケーブルテレビ



コミュニティFM



防災行政無線

現在（改修し追加SNSを含む各種媒体での発信）



防災ポータルサイト



気仙沼市HP

被災者支援メール
（登録携帯メール）

緊急速報メール



解消すべき課題

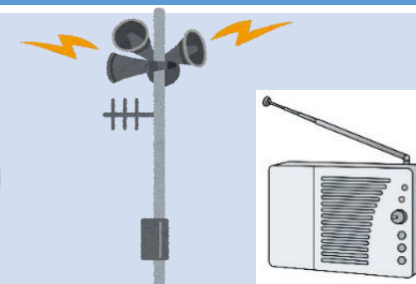
◎命を守る行動につなげる情報発信・受信

〔例：防災行政無線の難聴対策〕

現状整備している設備

- ・屋外拡声子局 255基
- ・テレホンサービス
- ・戸別受信機 約5,000台（無償貸与）

山間部など小規模集落では子局整備より受信機の方が有効
震災後、震災時に仮設住宅居住者にNGOから提供



発信している情報の種類

- ・定時放送（6時、12時、18時、21時）
- ・火災放送（発生、鎮火）
- ・防災情報（避難指示、高齢者等避難、避難所開設、津波観測・解除）
- ・地震（J-Alert起動：県北部で震度4以上）
- ・津波（J-Alert起動、サイレン、観測、解除）
- ・道路情報（三陸道通行止め等）
- ・行方不明（氏名・特長、発見）
- ・鉄道情報（運休、再開）
- ・クマの目撃情報
- ・特殊詐欺
- ・休日当番医
- ・行政情報（断水、停電、みなとまつり、選挙の投票） ほか

ハード面の課題

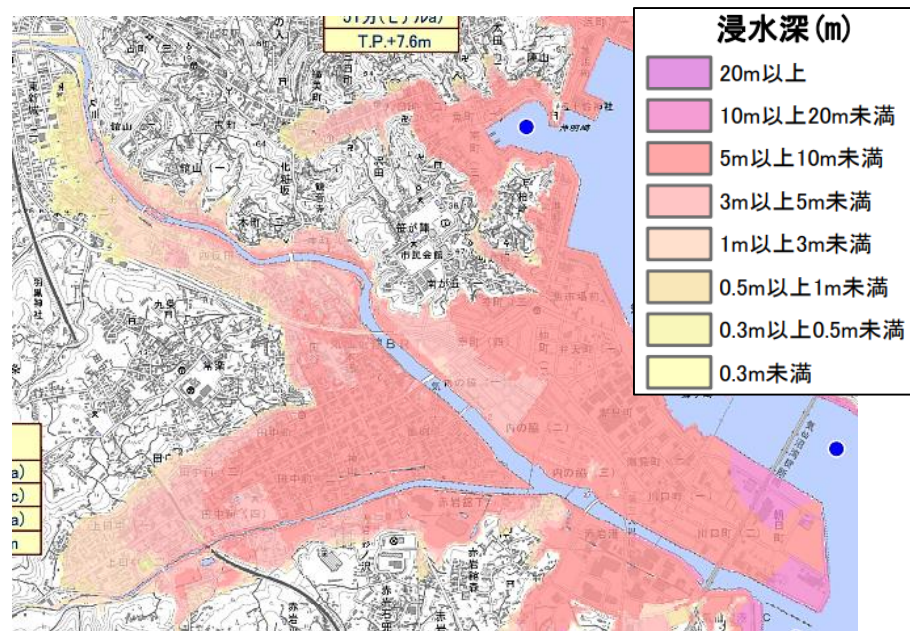
- ・**地形状況に伴う難聴**
(入り組んだ土地の形状)
- ・**家屋の高気密化に伴う難聴**
(窓を開けて聞こえるのが基準)
- ・**風雨による難聴**
(窓を開けても聞こえない)
- ・**子局の近くのお宅ではうるさい。**
離れたお宅では聞こえない。

ソフト面の課題

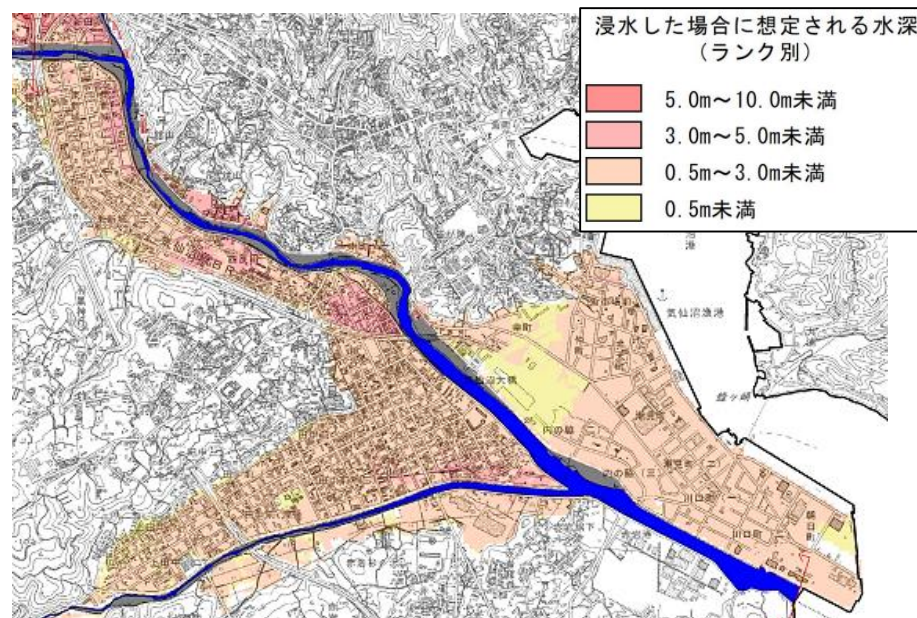
- ・**アナログ電波の使用期限**
(戸別受信機は全て聴取不可)
- ・**高齢化率「約40%」**
(スマホ所有、SNS等の操作)
- ・**外国人・観光客への周知**
(研修生には防災講座でアプリ紹介)
(最重要はエリアメールで周知できるが)
(どこに、どのように。徒歩・車・渋滞)

想定し得る最大規模の災害への備え

津波浸水想定区域図



洪水浸水想定区域図



防災面の課題

- ・ 観光客（地理不案内者）の避難誘導
- ・ 災害時要支援者の避難
- ・ 日中支援できる世代の不在
- ・ 高齢・少子化、人口減少

対策の例

- ・ 津波時避難ビルの指定、壁面に表示
- ・ 電柱への誘導表示（5か国語使用）
- ・ 防災教育、災害伝承の強化
- ・ 自主防災組織の活発な取り組み

**システムや資機材整備だけでは解決しえない課題も。
マンパワー不足、財政難は被災への理由とならない が…**

- ・情報収集手段として防テクPF個別相談会に参加（令和3年11月）

⇒ 複数のニーズを提示し、**複数の事業者とマッチング**、情報収集

令和3年11月の個別相談会参加時に提示したニーズ

- ・防災行政無線放送のアプリ配信（J-alert対応含む）
- ・津波浸水高表示（ポール、看板）
- ・利用時（避難所開設時）のみ料金負担のWi-Fi（タブレット、スマホ対応）
- ・消防団員出動報告の確認・入力作業軽減（RPA試行するもコスト見合わず）
- ・訓練不要の安価なドローン（以前所有するも習熟不可で破損）
- ・安価な実験器具（地震、津波、洪水、土砂災害）

- ・並行して、**防テクPF登録外企業からの情報も収集**

（合致する点、条件と異なる点など検証）



市側の状況変化をふまえ**再度、本日の個別相談会に参加**

⇒ 防テクPF個別相談会を通じ
ニーズ・仕様をブラッシュアップ

○今回の個別相談会で提示したニーズ

本市では「防災行政無線」屋外拡声子局等を用い防災情報の発信をしているが、**あらゆる状況でも、あらゆる住民**（高齢者や外国人等）に**確実に情報が届くよう、なるべく安価な**、スマホへの情報提供システムも含めた情報伝達の手段の提案。

※ アプリ等での防災行政無線で放送する「音声」及び「文字」データ配信を想定

課題解消に向けた検討ポイント（行政の観点）

- ・**経費の抑制・マンパワーの補填**（導入することで従来より低減化）
- ・**災害時に確実に伝わること**（停電、断線、想定外の状況）
- ・可能なら**幅広い対象への対応**
（高齢者、視覚・聴覚障害、外国人、観光客）

※ 各々が抱える課題ごとに、異なる解決策

課題解決に向けたご提案をお待ちしております！

✓ 気仙沼市を取り巻く状況

- ・東日本大震災で甚大な津波被害
- ・復興に向け、震災復興計画策定等、対策を進める。

✓ 気仙沼市の抱える課題

- ・情報発信のハード・ソフト面で課題アリ
(防災無線の難聴、要配慮者への周知等)

✓ 防テクPFの活用

- ・情報発信のあり方を検討すべく、防テクPFを活用
- ・事業者から情報収集しニーズ・仕様をブラッシュアップ
- ・再び個別相談会に参加し情報収集、事業化を目指す